

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	保健師課程必修
担当教員			
高林知佳子、野口裕子、◎前川絵里子、久保野裕子、野村優希			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 後期	【授業時間】 30時間
	【担当教員】 【氏名】 高林 知佳子 野口 裕子 ◎前川 絵里子 久保野 裕子 野村 優希 佐藤 さゆり	【研究室】 304 209 307 共同研究室2 共同研究室2 共同研究室2
実務経験のある教員が担当します。		
【本学の科目区分】 専門科目		
【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 保健師課程		
【D P 1】 【D P 2】 【D P 3】 【D P 4】 【D P 5】 【D P 6】 【D P 7】 ◎		

到達目標	当該演習は4つの演習内容から成る。詳細な到達目標は当該演習要項に示す。以下は4つの演習内容における到達目標の概要を示す。 1. 地域診断では、収集した情報の分析から地域特性および地域の健康課題を明確にし記述することができる。 2. 健康教育では、取り上げる地域の健康課題から健康教育のテーマ・企画意図・対象・目的・目標を明確にしたうえで、必要となる健康教育の場や関係者、評価方法・評価指標などを選定し、目的・目標と対象者観に合った健康教育内容を検討し、指導案を作成することができる。 3. 乳児の発育発達測定技術では、家庭訪問を想定した環境下において、乳児の発育測定・発達確認を手順に沿い、かつ安全に配慮し行うことができる。また乳児の発育測定・発達確認からアセスメントし保健指導することができる。 4. 家庭訪問場面の展開では、本人・家族のアセスメント・看護計画立案ができる。および家庭訪問の導入から終結までの展開において本人・家族の実態や行動変容ステージを踏まえた保健指導ができる。	
授業概要	公衆衛生看護活動の実践に必要な基本的技術の習得に向け、具体的な事例を用いた演習を行う。	
授業計画	1-2	授業内容 授業形態：講義、グループワーク 学習課題：当該演習内容および当該演習と公衆衛生看護学実習とのつながりを理解する。 学習内容：1. 全体オリエンテーション 1) 演習全体の説明、公衆衛生看護学実習とのつながりについて 2) 地域診断、健康教育、乳児の発育発達測定技術、訪問場面の各演習内容の説明 2. グループ別オリエンテーション 備考：高林、野口、前川、久保野、野村
	3-8	授業内容 授業形態：演習 学習課題：講義で学習した地域診断の方法について、公衆衛生看護学実習市町村の統計・資料を用いて演習し、地区特性と健康課題を明らかにする。これにより地域診断を実施する技術を習得する。 学習内容：1. 地区特性の把握 2. 健康課題の分析 3. 発表および意見交換 備考：高林、野口、前川、久保野、野村
	9	授業内容 授業形態：演習 学習課題：家庭における乳児の発育・発達測定の方法を理解し家庭訪問時に安全・正確に実施したうえで保健指導を行うため技術習得に向けた練習を行う。 学習内容：1. 乳児の発育発達測定技術の練習 2. 練習時間以外は、健康教育の企画書・指導案を作成する 備考：高林、野口、前川、久保野、野村、佐藤

	10-11	<p>授業内容</p> <p>授業形態：演習 学習課題：地域診断で取り上げた地域の健康課題を解決するために、特定の集団に対して行う健康教育の計画立案を行い、健康教育を実施するための技術を習得する。 学習内容：1. 健康教育の企画 2. 健康教育の指導案作成 3. 発表および意見交換</p> <p>備考：高林、野口、前川、久保野、野村</p>
	12-13	<p>授業内容</p> <p>授業形態：演習 学習課題：家庭訪問を想定した環境下において、乳児の発育測定・発達確認を手順に沿い、かつ安全に配慮し行う。また乳児の発育測定・発達確認からアセスメントし保健指導を実施する。 学習内容：1. 乳児の発育発達測定技術（ロールプレイ）</p> <p>備考：高林、野口、前川、久保野、野村、佐藤</p>
	14-15	<p>授業内容</p> <p>授業形態：演習 学習課題：事例を用いて、家庭訪問における対象者本人・家族への訪問場面の展開を実施（ロールプレイ）し、保健指導技術を習得する。 学習内容：1. 事前課題（看護計画等）の作成 2. 事前課題（看護計画等）の修正 3. 訪問場面の展開（ロールプレイ） 4. 訪問場面の展開に対する意見交換</p> <p>備考：高林、野口、前川、久保野、野村</p>
事前・事後学習		事前学習：これまでに学習した地域診断、健康教育、家庭訪問に関する公衆衛生看護学の講義内容および乳児の発育・発達を整理する。 事後学習：演習内容を整理し、4年次公衆衛生看護学実習に向け必要な基礎的技術を復習する。
評価方法、評価基準		評価方法・評価基準：4つの演習内容別に詳細に設けている。地域診断（10項目）、健康教育（20項目）、乳児の発育発達測定技術（20項目）、訪問場面の展開（10項目）。その詳細は当該演習要項に示すので参照すること。最初の講義時に説明する。 配点割合：地域診断（30%）、健康教育（20%）、乳児の発育発達測定技術（30%）、訪問場面の展開（20%）
必携図書		・厚生労働統計協会：国民衛生の動向 ・公衆衛生看護学に関する講義資料
参考図書・資料等		・エリザベスT. アンダーソン, ジュディス・マクファーレイン 編 (2007) : コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版, 医学書院 ・公衆衛生看護学に関する講義資料 ・その他の参考図書の詳細は、当該演習要項に示す。
受講、課題、資料配布等のルール		受講：始業時間から20分以上の遅刻は欠席とみなす。 課題：授業時間内・演習期間内において課題作成・発表やロールプレイを行うことについて最初の講義時に説明する。 資料配布：最初の講義時に資料を配布する。
教員からのメッセージ		当該演習は、公衆衛生看護技術論、対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱで学んだ公衆衛生看護活動の方法・技術を用いながら、4年次の公衆衛生看護学実習を見据えたグループ学習です。当該演習ではグループディスカッションを深めることも、より明確な地域診断、より効果的な健康教育など、公衆衛生看護学の理解の深化と実習準備につながりますので、技術の習得とともに、当該演習をする中で生じた疑問や意見を積極的に発言しディスカッションが深まることも期待しています。
オフィスアワー		